

ボッチャ 投げる力加減難しい

大府市大府南中学校で8日、もあるボッチャは、的となる目障害の有無にかかわらず楽しい。標球を目掛けて2チームが赤と青のボールを投げ合い、いかに近づくかを競う。投球の力加減や相手の球をはじく技術が鍵となる。

岩瀬さんがルールや投球方法を紹介した後、1年生が対戦形式で競技に挑戦。初めて体験したという鈴木海斗さん(13)は「誰でも楽しめるスポーツだが簡単なわけではなく、球を投げる力加減が難しかった」と話した。

日福大・岩瀬さん 大府南中で授業



る力加減が難しかった」と話した。

生徒の様子を見守った岩瀬さんは「障害がある人も、みんなと同じようにスポーツや学校生活を楽しんでほしい。ボッチャを通して、そのことに気付いてもらえたらうれしい」と語った。授業は市と日本福祉大が結ぶ包括協定の一環で、市社会福祉協議会などと連携して行われた。

(望月海希)

岩瀬さん(右から2人目)の指導でボッチャを体験する生徒ら。大府市の大府南中で